

国際理解教育としての中等社会科の授業設計

吉田 剛・安部卓也・渡邊史花

本稿は、国際理解教育としての中等社会科の授業設計を行うことを目的とする。本章では吉田が国際理解教育に関わるグローバル化に関する基礎的検討を行う。次に、グローバル化がもたらすグローバル社会の【相互依存】の観点から、2章で安部が環境・エネルギーに関する題材による高校地理Bの授業設計を行い、3章では渡邊が人口・食糧問題に関する題材による中学校公民分野の授業設計を行う。

1. 1 グローバル化と国際理解教育 (吉田 剛)

国際理解教育としての社会科教育¹⁾において、グローバル化の話題との関連は不可欠である。グローバル化によって世界的なスタンダードが欧米を中心に形成され、良くも悪くも地球規模的な影響力を持ち、それによって局地的な反動もみられるが、全世界が変貌してきている。ただし、このようなグローバル化が進む現代の国際社会を‘平和’とってよいのであろうか。近年、メディアからは日常的に、西アジアやアフリカを中心に「自爆テロ事件」、「紛争」、「誘拐事件」などに関する情報が頻繁に流れている。これらの出来事が歴史的なグローバル化の経緯とともに関係していることは否定できない。つまり、グローバル化のマイナス面が認められるのである。そこで、グローバル化のマイナス面を乗り越え、プラスに充実させていく方向性を思考させる教育が必要であり、国際理解教育としての社会科教育の授業設計において一層重視していく必要がある。

1. 2 人間性を高めるグローバル化に必要な条件と国際理解教育そして社会科教育

国際政治学者である坂本(2010)のグローバル化に関する見解に着目したい。坂本氏は、グローバル化のあるべき方向性について、「人間が、グローバルな関わりや影響の中で生きるという傾向を、好むと否とに拘らず、促進するか抵抗するかに拘らず、強めていくことは確かであろう。問題は、それを非人間的なグローバル化ではなく、人間性を高めるグローバル化とするためには、この挑戦に応じて、いかなる条件を満たしていかなければならないか、である。」と主張し、そのための条件を4つあげている。

- ①：平和のグローバル化である。・・・「平和」とは、この悲惨な歴史をもつ世界を、人間の尊厳を豊かにみたくしていく世界に創りかえていく闘いのプロセスにほかならない。
- ②：すべての人間が飢餓や貧困から解放され、格差のない公正な資源配分を達成することである。・・・根本において、公正と正義の実現の追求にほかならない。

③：20世紀に問題意識が生まれながら、解決を21世紀に持ち越した、自然環境とのエコロジカルな共生を達成することである。・・・環境との共生を確実にするためには、単に「環境にやさしい技術」の開発を進めるというテクニカルな発想に依存するだけでなく、われわれが近代的価値として自明視してきた人間の「自由」、経済の「成長・発展」という概念を、根本から再考し、われわれの生き方や生活様式を変革することが不可避である。

④：他者を対等な人間存在として認めないような思想、宗教、習俗、偏見などを克服することである。それは人間を、基本的に平等な尊厳の主体として、互いに認め合うという行為であり、私はこれを普遍的な「ヒューマニティ」の思想と考える。

以上の4点について、第1表の天津氏による国際理解教育の学習領域(2006)に照らしてみると、①はC「地球的課題の平和」、②はB「グローバル社会の相互依存」またはC「地球的課題の開発」、③はC「地球的課題の環境」、④はC「地球的課題の人権」に対応するものとなっている。つまり、国際政治学から見た望ましいグローバル化の条件は、概ね国際理解教育の学習領域における地球的課題の全内容に対応するものとなり、グローバル化は地球的課題として、国際理解教育の課題解決的な学習の主要なテーマとして取り上げられることになる。

そこで筆者は、国際理解教育における4つの学習領域を社会科教育の基礎から考えてみると、第1表のように、A「多文化社会」とB「グローバル社会」は、主に社会認識形成の段階、そしてC「地球的課題」とD「未来への選択」は、主に公民的資質の育成の段階から捉えられるものとして考える。つまり、AとBは社会的事象の把握とそれらの因果関係の理解の場を、そしてCとDは問題解決過程を通じて社会的価値判断や意思決定を通じて公民的資質が育成される場を用意できるからである。ただし、地球的課題の授業展開に至る前に、AとBの基礎的知識・理解のための授業展開が必要である。

一方で、社会科教育に限らない天津(2006)の議論の中では、A・B・Cの統合としてDの学習領域の位置付くモデルが示されている。もちろんのこと、DはA・B・Cの統合によって十分な授業展開が可能になる終盤の展開であり、その点は社会科教育の授業展開においても同様である。

ところで問題は、社会科教育において社会認識形成と対応するA・Bの中の「・・・文化社会あるいは社会」が、どのような社会を対象にしてどのように授業展開すべきかであり、授業設計において熟慮したい点である。身近な地域の社会、市町村や都道府県などの国内行政単位での社会、国内の地域文化、国内の異文化、国内の多文化共生社会、東アジア文化あるいは東アジア共同体のような地域共同体の社会、外国の社会と文化、地球社会、そして国家など様々である。またそれらの文化や社会の間の相互交流を問題にすると、学

習対象は無数に存在する。実践的には、もともとある社会科教育カリキュラムの中で、それらの文化や社会をどのようにして社会科目標あるいは国際理解教育の理念から内容として取り上げ、どのような教育方法をもって授業を進めていくかが工夫のしどころである。まずは一つ一つの単元設計におけるその充実からであろうが、生徒や地域・学校の実態に応じて、可能であれば国際理解教育として社会科教育として体系的にシラバスを構築したいところでもある。

第1表 社会科教育目標と国際理解教育の学習領域との対応（吉田剛作成）

社会科目標	大津(2006)による国際理解教育の学習領域	
社会認識	A 多文化社会	1 文化理解：「違うけど同じ」 2 文化交流：「違うから面白い」 3 多文化共生：「違いとつきあう」
	B グローバル社会	1 相互依存：「つながりに気づく」 2 情報化：「あふれる情報の中で」
市民的資質	C 地球的課題	1 人権：「安全に暮らしたい」 2 環境：「地球があぶない」 3 平和：「暴力はいらない」 4 開発：「みんながより安全に暮らすために」
	D 未来への選択	1 歴史認識：「過去があって今がある」 2 市民意識：「私は社会の一員」 3 参加・協力：「私にも何かができる」

注

1) 吉田・伊藤・市川(2008)から吉田によれば、国際理解教育としての社会科の意義は十分に認められ、新学習指導要領が今日の国際化の社会動向を一層重く捉え、国際理解教育に不可欠な基礎・基本的な知識の理解および技能や態度について、社会科の教科内容から充実させていく方向にあると論じている。

参考文献

大津和子(2006)：3 国際理解教育のカリキュラム開発の基本枠組み 第1節国際理解教育の学習領域. 多田孝志研究代表『グローバル時代に対応した国際理解教育のカリキュラム開発に関する理論的・実践的研究 第1分冊 平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究B(1))研究成果報告書』 pp.18-26.

坂本義和(2010)：東アジアを超えた「東アジア共同体」の構想を。『世界』, No.800, 岩波書店, pp.169-180.

吉田剛・伊藤公一・市川孝仁(2008)：国際理解教育としての小学校社会科の授業設計—実践と理論の循環・更新モデルを念頭において—。宮城教育大学国際理解教育センター紀要, 第3号, pp.9-28.

2.1 授業構想『単元：現代世界の諸課題の地理的考察（地理歴史科地理B）』 －【相互依存】に照らして－（安部 卓也）

本単元では現代の世界や日本が取り組む諸課題について、地球温暖化問題を取り上げた。学習指導要領では内容の(3) 現代世界の諸課題の地理的考察において、「現代の世界や日本が取り組む諸課題について、広い視野から地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めさせるとともに、地理的に考察する意義や有用性に気付かせ、地理的な見方や考え方を身に付けさせる。」とある。地球温暖化問題は環境問題のなかでも世界の各地域において、その現れ方には地域ごとの諸条件の差異による特殊性が見られるとともに、とらえ方が大きく異なり、世界を大観する広い空間的視野と地域性を踏まえて考察する必要性が求められる。その空間的視野の育成にはさまざまな側面から地球温暖化をとらえた主題図の比較・活用が有効である。また、(3)のオ環境、エネルギー問題の地域性において、「環境、エネルギー問題を世界的視野から地域性を踏まえて追究し、それらは地球的課題であるとともに各地域によって現れ方が異なっていることをとらえさせ、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることなどについて考察させる。」とあり、この単元では国際協力という語句が頻繁に使われており、地理Bの目標にある「現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。」の達成のために、さまざまな地球的課題から国際社会の概観をとらえる役割を持つ。特に地球温暖化問題はその対策として身近な取り組みを数多く事例として取り扱うことができ、本授業構想では仙台都市圏の交通需要マネジメントの一つである、パークアンドライドを取り上げ、ドイツの環境先進都市、フライブルクのパークアンドライドと比較することにより、都市問題・温暖化問題は地球的課題であり、その取り組みには地域性があることをとらえさせるとともに、仙台都市圏のパークアンドライドの有効性を高める工夫をグループ学習で議論することで、社会参画の意識を養う視点を取り入れた。

2.2 学習指導計画案

(1)単元の目標 地球温暖化問題を世界的視野から地域性を踏まえて追究し、その空間的配置や傾向性をとらえさせ、それらは地球的課題であるとともに各地域によって現れ方や取り組み方が異なっていること、その解決には地域性を踏まえた国際協力【相互依存】が必要であることなどについて考察させる。

(2)評価の観点 ○資料の読み取りやグループ学習における議論を意欲的に行おうとしている【関心・意欲・態度】。○地球温暖化の原因や影響を空間的配置や傾向性からとらえることができる。両都市の交通需要マネジメント（主にパークアンドライド）の特徴や違いを多角的にとらえることができる【知識・理解】。○地図や主題図、統計資料を適切に読み取り、自己の意見に活用している。グループ学習において自分の考えをわかりやすく表現することができる【技能・表現】。○地球的課題の解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを理解す

ることができる【思考・判断】。

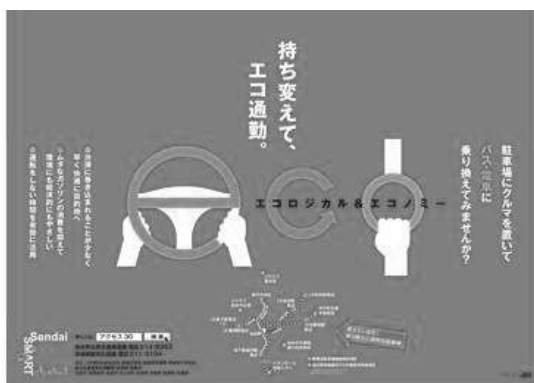
(3) 単元指導計画（6時間）

時	主な学習活動	指導上の留意点	資料等
1	【地球温暖化の原因を理解する】 温暖化の仕組みを理解する。 CO ₂ を多く出している国はどのような国か階層図より読み取り、その理由を考える。	温暖化の仕組みを構図でとらえさせる。 世界のCO ₂ 排出の図から、その空間的配置や傾向性をとらえさせる。	教科書 地図 資料
2	【地球温暖化の影響を理解する】 地球温暖化のどのような地域に広がり、自分たちの生活をどのように変化させるのか考察する。	温暖化は地球的課題であるとともに各地域によって現れ方が異なっていることをとらえさせる。 温暖化の動向を空間的にとらえさせ、自分たちの生活をどのように変化させるのか考察させる。	教科書 地図 資料
3	参照		
4	参照		
5	【温暖化に対する意識格差①】 都議定書が取り決められたことや意義について理解する。 都議定書の内容をとらえ、温暖化に対する問題が要因となる意識格差をとらえる。	都議定書の意義を理解させる。 先進国と上国の温暖化に対する意識の差をとらえさせる。	教科書 地図 資料 資料プリント
6	【温暖化に対する意識格差②】 都議定書発効の経過とともに温暖化に対する考えを、先進国・上国の方場で討論する。	地球温暖化などの地球的課題の解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考察させる。	教科書 地図 資料 資料プリント

(4) 単元指導計画：細案（3，4／6時間）

- ①**題材名** 地球温暖化への身近な取り組み～交通需要マネジメント～
- ②**本時の目標** 都市問題・地球温暖化への対策は地球的課題であり、その取り組みには地域性があることをとらえ、仙台都市圏のパークアンドライドの有効性を高める工夫をグループ学習で議論することで社会参画の意識を養う。
- ③**素材の概要（仙台市とフライブルクの交通需要マネジメント）** EIC ネットによると⁽¹⁾、交通需要マネジメント（ p ，以 ）とは、道路ユーザーに時間、経路、交通手段や自動車の用法の変更を促し、交通量の和を図る方法とある。現代世界では交通需要が道路容量を上るに達しており、道路などの交通施設の増設のみでは交通量の和に限界が生じている。また、交通量の増加とともにCO₂やPM_{2.5}などの排出が増加し、健康などの問題も深化してきている。このため道路の「利用の工夫」と「適切な利用の誘導」によって、持続可能な交通流を実現することが求められ、道路と平行して公共交通が必要とされており、地球温暖化対策に有効なものとして注目されている。また、パークアンドライドについて、他(200)

(2)は「自動車中心の交通体系を見直し、公共交通の利用を促進することが求められている。その主たる目的は、うまでもなく、気すがもたらす環境のと都心部における道の解にある。いずれにしても公共交通の利用を促進するためには公共交通関係それ自体のースを高め、それを用しやすい環境づくりを行うことが必要となる。パークアンドライドもそのような策の一つとして位置付けられよう。」とべている。仙台都市圏のパークアンドライドは仙台市をはじめとする地方自治体が主体となり、仙台市中心部への自家用の乗入れをらすことにより、交通の和と環境対策を目的として、平成11年から実されている。その規模は年々大し、平成21年現在は仙台市とその都市で11の実地を設置し、行政設置の場だけでなく、業設等の場を活用した点が特徴の一つである。しかし、公共交通関係利用者数のをみると、ここ数年マイカー用者は加傾向にあるにも関わらず(3)、公共交通関係用者はの一をたどり(4)、実から10年経過した現在、仙台都市圏のパークアンドライドは十分な成果を出すまでには至っていない(5)。現在、仙台市は市民や業との協により進める策として、道・バス・道などの交通基盤を連させ公共交通の・ース向上を図る「仙台市アクセス30分構想」計画(18~2)に取り組んでおり、パークアンドライドもその取り組みの一つに位置付けられている。



資料1：仙台市P&R中吊り広告
(仙台市交通局HP)



資料2：仙台都市圏のP&R実施地域
(仙台市交通局HP)

「環境都」として世界的に有名なフライブルクはドイツ西部に位置する人口20人ほどの都市である。この都市はれた交通政策を取っており、1984年に市内への自動車乗り入れ限に踏み切って自動の交通を限する一方、合的な交通システムを充させて市民の生活基盤を確している。ード面では市・市バスの充が、フト面では1991年にギオカルテ(環境定)とばれる地域環境定の導入が行なわれている。これは1で地域内全長2900の公共交通関係がほ乗り放題となる

定 車で市バス、近郊のドイツ道、私バスも利用できる。しりも自由で、日には家も一に用でき、料金は通常の定 60～0 である（定 の は多様）。パークアンドライドは市の前に広い場が用意され、通・いなどで市内へ向かう人のために、からされた公共交通 関への乗りえを容にしている。道一ムと面 の乗場は ばれ、面 とバスが一ムを んで乗りえが可能なトランジ トセンターもあり、公共交通 関の乗りえがスムーになるように されている。市内では 料金は高く設定され、中心部は自動 乗り入れ 域であり、できるだけ市内に を乗り入れないトランジ トモールが形成されている。トランジ トモールとは 行者 用空間に公共交通 関（面 ・バス・タクシー）のみ通行を す交通システムであり、世界では 40 都市以上で導入され、その効果が確認されている。 存の道を くして自 用道の にも取り組んでいる。このような交通政策の 果 1966年からの20年間に、フライブルク市における交通 段は自動 の割合が る一方、公共交通 関の 用者はほ している。また、このような交通需要マネジメントを行いながらも、フライブルクの公共交通の は であり、 は市の補てんと自動 用者の 金で補っている点も れてはならない。社会である日本も、ドイツと変わらない部分はあるが、地球温暖化対策のために 民が を強いられる自動 交通の規 ではなく、交通需要マネジメントで重要な視点はフライブルクの例のように「自動 より く定時 が確 できる」「自動 より 動にかかると費用が安い」「環境 に している」といった、市民に理性的な判断を求め る政策である。授業では自分たちが理性的に公共交通を選択するには、どのような が必要かといった社会参画の視点を たい。

④評価基準

価基	A (十分満 できる)	C (満 できない・対応)
資料の読み取りやグループ学習における議論を意欲的に行おうとしている。 【関心・意欲・態度】	フライブルク市の交通需要マネジメントの特徴を活かし、仙台都市圏のパークアンドライドの有効 用を意欲的にグループ内で話し合うことができた。	パークアンドライドの有効 用に関心がなく、グループの話し合いに意欲的に取り組めない。 ・資料を活用し、自分の考えを生み出せているか確認する。
両都市の交通需要マネジメントの特徴や違いを多角的にとらえることができる。 【知識・理解】	資料をもとに両都市の交通需要マネジメントの特徴や違いを適切に べることができる。	両都市の交通需要マネジメントの特徴や違いをとらえることができない。 ・資料を特定してやり、そこから捉えるように指示する。
グループ学習において自分の考えをわかりやすく表現することができる。 【技能・表現】	グループ内において、適切な資料を指しながら自分の考えを表現することができる。	自分の考えを 理することができない。 ・プリントで資料から読み取ったことが 理してあるか確認する。

⑤指導計画

時	主な学習活動・生徒の反応	指導上の留意点	資料等
3	身近な地球温暖化対策への取り組みをあげよう。		
	○身近な地球温暖化対策への取り組みをあげる。 ・アイドリングストップ・温 (エネ)・クール	C ₂ 出をらす取り組みを 考えさせ、自動の気スに対 する意見を取り上げて次の問い につなげる。	家からの化 出 (資料①)
	交通需要マネジメント()とは何だろう。		
	○交通需要マネジメントの必要性 を考える。	自家用の用より、公共交通 関の用のほうがC ₂ 出を らすことができることを資料 から理解させる。	1人を1ぶのに 出するC ₂ (資料②) C ₂ クシ ート
身近な地域の交通需要マネジメントについて考えよう。			
○仙台都市圏パークアンドライド について資料から読み取り、わ かったことを発表する。・仙台都 市圏の高い自動依存・通 ・通学時の交通・パーク アンドライドの設置の と 用者数・業設場用	資料から仙台都市圏の交通事情 とパークアンドライドの現を 捉えさせる。仙台都市圏の高い自 動依存のには交通だ けではなく、地の地が大 きく影響していることを、図を用 いて明する。	仙台市パークアンドライ ド中り広告(資料④) 自作プリント・スライド (資料③④より作成) 地図 地形図	
○仙台都市圏のパークアンドライ ドの課題を考察する。・公共交通 関が高い・用地に偏 りがある・用者が ない・交 通のが悪い	考察は必ず資料をもとにするよ うに指示する。 資料が多いため考察できない生 徒には、指定した資料から考える ように指示する。		
○題 仙台市中心部に通す る者にき取り。 知っているか・用してい るか・していない場合な か・ どうすれば用しようと思うか	ができる生徒を、次時で作る 各に必ず入れるように確認し ておく。		

4	環境先進国の交通需要マネジメントを理解しよう。		
	○フライブルク市のパークアンドライドについて、資料から読み取り、わかったことを発表する。 ・面（トラム）がっている ・市内中心部の自動規格が厳しい ・と公共交通関係の乗りえがスムーズ ・地域環境定（ジオカルテ） ・交通政策の充実・補助金	フライブルクの場合の確認をさせる。 資料からフライブルク市のパークアンドライドの現を捉えさせる。 フライブルクの道は戦、環道をはじめとした統的なみを市民がしたことが公共交通関係を発達させた一因であることにも着目させる。	地図 自作資料・スライド (資料より作成) フライブルクの様子 (資料：動画)
	仙台都市圏とフライブルク市のパークアンドライドにかかわる取り組みを比較してみよう。		
	○前時の学習内容から仙台都市圏とフライブルク市のパークアンドライドを比較し、その違いをべる。	比較しやすいように、入式のプリントを使用し、都市形態と交通交通政策市民意識などの観点で比較し、両都市の特徴を理する	プリント
仙台都市圏のパークアンドライドの有効性を高めるためには何が必要なのか考えよう。			
○仙台都市圏のパークアンドライドについて、前時の題の果および課題考察とフライブルク市とを比較した果、有効性を高めるためには何が必要か、グループで合的に考え、発表する。 ・市内中心部の交通規 ・用者への交通関割 ・バスとームの ○発表した内容から現実的な取り組みについて意見を共有する。	間視をしながら、現実的に考えられないにはヒントを出していく。 都市問題・温暖化への対策は地球的課題であり、その取り組みには地域性があることをとらえさせる。	前時の題 プリント	

資料①：全国地球温暖化活動進センター プ イト (p 1048 88)

資料②：交通エコロジー・モ リティ (p p)。

資料③：仙台市 (p p)。資料④：仙台市交通局 (p p)

資料：国 交通 ・近 地方 局 (p p p) バリアフリーデザイン研究会 (p p p p)

資料：行政法人情報 理 進 構 教育用画 材 (p 2 . . p . . p 2 - 1 - -)

2.3 今後の展望

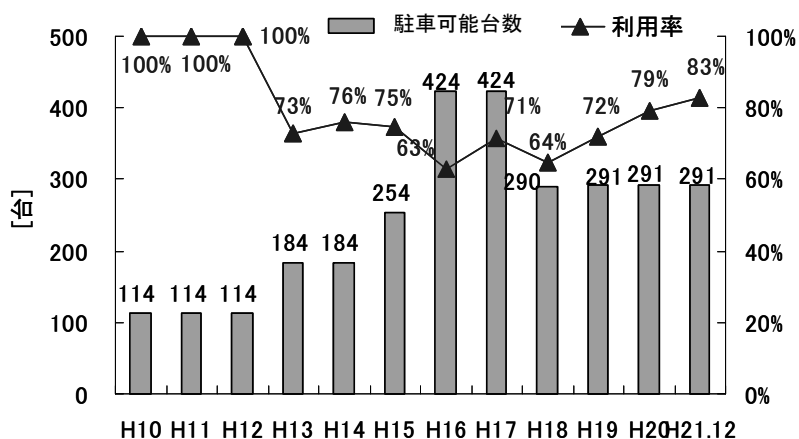
本授業構想に関する今の取り組みについて、以下の3つの点に留意したい。まず、多角的に交通需要マネジメントを考えさせる際に、マネジメントということで、どうしても経済的、政治的に偏りがちな視点を、地理的見方・考え方を意識させる考察となるような指導を心がけたい。そのためには地図をはじめとする、空間的な視点から交通を捉えさせる資料の提示が必要である。次に生徒に読み取らせる資料を選ん出ることがあげられる。地域教材を取り扱う場合、多くの資料を選出しなければならないが、それらすべてを生徒に提示するわけにはいかない。生徒に考えさせ、習得させたい知識やつかませたい課題をはっきりさせるために、知識を構造化し、それに基づいた資料(情報)を扱うことを留意しなければならない。

【参考資料・文献】

- (1) () 環境情報普及センター (p . . . p)
- (2) (200) : コミュニティバスの導入とパークアンドライド政策がもたらす公共交通シフト効果 高都市圏のケース 川大学 論, (4), pp.6 -69
- (3) 国 交通 「平成1 年度道 交通セン ス」によると乗用 の交通 の 加が目 つ。
- (4) 仙台市交通 関 乗 人員 び乗 料 入 (仙台市 資料より作成)

		18年度	19年度	20年度
自動車事業 (バス)	乗人員(人)	399	380	3920
	乗料入()	864	66	646
高道事業 (地)	乗人員(人)	861	69	62
	乗料入()	11611	1139	11083

() の 場 用者数の と 場数の (仙台市交通局資料より)



3 授業構想『単元：地球社会と私たち 人口・食糧問題（中学校第3学年）』 －【相互依存】に照らして－（渡邊 史花）

3. 1 2009年度日本国際理解教育学会・日本グローバル教育学会の研究大会

日本国際理解教育学会では、総合的な学習の時間と関連して、国際理解教育で身につく力は何か、確かな学力とは何かについて特に議論がなされた。シンポジウムテーマは「国際理解教育と『習得・活用・参画』に結びつくカーリキュラムや社会参加学習がめざすもの」である。日本グローバル教育学会では大会テーマは「流動化の時代におけるグローバル教育の課題と展望ーグローバル教育の理念をどう活かすかー」である。この二つの大会参加を通じて有意義な議論はなされたとも考えることができるが、多様で幅広い話題となり、現場の先生方にとって、どのように始めるべきかどうか、進めるべき場が多分にあると思われた。つまり、筆者は、国際理解教育やグローバル教育の用語としての使い方が理論的見解や実践における生きた学びを重ねてきたしているのではないかと考えている。そこで、筆者は、国際理解教育やグローバル教育が現場で実践される場合の多い「総合的な学習の時間」ではなく、教科教育としての社会科公民的分野の授業から、確かな学習形成を行った上で、その延長として「総合的な学習の時間」で断片的に学習を深めることが、その効果を高める有効な手段であると考えている。平成20年12月12日 中学校学習指導要領社会科公民的分野において、教育現場の実際の授業の中で、何に国際理解教育の意図合いを盛り込み授業形成を行うことができるかといった点に着目し、その点を課題にしたい。本稿では、「相互依存」に着目した中学校社会科公民的分野の授業設計を行うことを目的とする。

3. 2 単元について

統計局の統計データによると、世界人口の増加は、2008年に60億人だった人口が、2022年には80億人、2050年には90億人と加える見込みで、その増加が上国の増加分である。過去をみれば、人口増加や飢餓の大発生などによって、人口増加の方向へコントロールがされていたが、近代以降、人口増加の要因として、技術の進歩などの要因により、人口増加が進んでいる。近年では、子どもの養育費が高くなっていることなどの事情もあり、先進国での人口増加は減っているが、上国では人口の増加が抑制されている。人口増加と食糧問題は密接な関係にあるが、人口増加だけが飢餓を引き起こす要因ではない。長期的に見た場合、人口と食糧のつりあいが取れなくなる可能性があるが、統計上では、今日、世界のすべての人々に十分な生きた生活を営むために必要な養分を摂取するのに十分な食糧があるとされている。しかし現実には養分不足とされる人々が8億人以上存在している。世界の飢餓の原因によると、食糧不足の問題が主としてあげられている。

—直接的な問題— 紛争:紛争が 起ると、大 の人が家や 地などすべてを てて 民キ ンブなどへ避 せざるを なくなり、食糧生 などがままならない になる。さらに で 作業もままならず、食糧の確 は困 をめる。 異常気象:地 や津波、 ばつなどの自然 が 起ると、 作 が を け人々は家や家、 事などの生活基盤を う。近年では気 変動の影響か、自然 による は一層深 化している。 業生 性の : 業 は、1960年~80年代までは 2.3 で、人口 をほ 満たす形で していたが、80年代の ばからは傾向にある。この には 地面 をそれ以上 やせなくなったこと、1人あたりの 地面 が したことなどが原因である。さらに大きな問題としてこれまで 地だった が高 の開発、 や化学 料を大 に使用しての大規模 業を行った 果、 化や の 化などが進んだことがあげられる。生 性の と関連があるもう一つの要因は 資源の問題である。飢餓人口の割合は 資源の十分でない地域に多いという点も着目すべき要因である。

—間接的な問題— 食糧価格の高 :2 年から2 年にかけて、主に食糧価格の高 を原因とし、1 1 人もの人が新たに飢餓に っている。現在、世界の飢餓人口は1 人近くにまで上っている。食糧価格高 の原因としては、アジアや中 米などで食生活が豊かになるにつれて食生活が高度化を こし、家 の 料としての 需要が していること、環境にやさしいとして 目を めるバイオ 料の原料として が使われていること、オーストラリアなどの主 地が ばつなどの自然 に われ不作に終わったこと、原 高により食糧の コストや 料の値段が上がったことなどが げられる。食糧価格の高 は、同じ金 で える食糧の が大 に り、人々は食 事の や 数を らすことを なくされているということである。これまでは自分の 入で食糧が えたものの値上がりにより えなくなり、新たに の食糧 を必要とする人も えているという報告が より出されている。これに加えて、金 などの政治・ 業が をかけている。先進国の影響:食料を に入れることができない 上国がある一方で、世界の 生 のうち 大な を家 のえさとしている、多くの食べ しが先進国から出されている、といった現 に着目した際、それまで無関心であった先進国にも問題はある。

大まかに以上のようにまとめられる。しかし自然 と食糧価格の高 が にかかわっていることも指 できる。つまり人口と食糧問題はその要因、 が にかかわっているものであることに気をつけなくてはならない。さらに、本 材を使用する際に 意しなくてはならないこととして、日本の食糧問題と世界の食糧問題は異なる点が多いということである。日本の場合は経済的要因や外交関係上の問題など、世界の食糧問題とは異なつたとらえ方をする必要がある。日本の食糧問題の中で、 い食料自 による 入依存が重大である。これによって例えば、 上の が発生する場合や、 出国が不作に り、 の あるいは 入 の が 起るなど、外交関係上の問題が考えられる。さらに日本は、食糧自 は いが、 の高いことを に食糧を大 に 入し、大 に食べ しを出していることは、飢餓が する中で人道的ではないと考えられるのではないかという点がある。

3. 3 指導について

この学習では、現代社会における食べ方が多いなどの食の時代としての問題点を、世界の実情といった広い視野と照らし合わせることによって、食の問題を捉えなおさせたい。そのための指導計画として、1時間目は世界の人口の増加をデータなどから読み取らせ、その増加、とりわけ近代以降の人口の増加、人口増加が激しい地域を理解させ、人口問題とはどのようなものかを考察させる。2時間目は人口と食糧問題について、分岐図などを読み取り、おもに自然環境、地力の不足、紛争などの点から人口問題との関連性を理解させる。3時間目は食糧問題を先進国と途上国の関係から捉えなおすため、前時で学んだ地力の不足として先進国の影響を理解し、その他に生活性の向上による食の現況を理解させる。4時間目はまとめとして、これまでの授業をもとに人口と食糧問題の図式化を行い知識の定着を図る。その中で各自で意見交換を行い学習のまとめを行う。全体を通して、世界と日本の人口の増加、世界と日本の食糧問題は関係すれども取り上げられる問題は異なるものであるということに留意したうえで学習を進めていきたい。

3. 4 指導計画

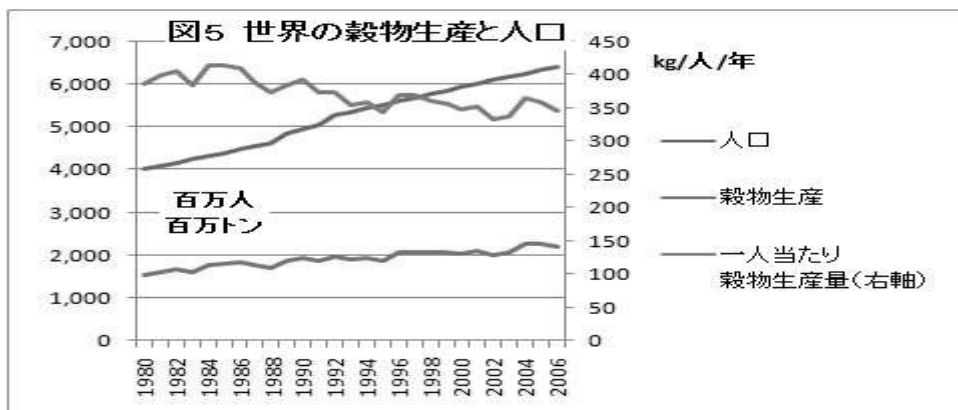
単元の指導計画	単元	内容
1時間	人口問題	近代以降の人口増加などをグラフから読み取り、なぜ人口増加が激しかったのかを理解する。さらに人口問題とはどのようなものがあり、世界的に増加している地域で起きている問題とは何かを理解する。
1時間(本時)	人口と食糧問題	食糧分岐図には地域差があること、さらに食糧生産と人口増加を比較することにより人口・食糧問題の関連を読み取る。
1時間	世界の食糧事情	前時での内容と関連付け、先進国の影響を理解させ、さらに食生活性の向上などから食糧の現況を理解させる。
1時間	人口・食糧問題のつながり(まとめ)	これまでの学習をもとにワークシートを作成する。さらに自分たちが世界の食糧問題にかかわっていると考えられる点を各自で考察を行い、まとめる。

3. 4 小単元計画 人口と食糧問題

教のきかけ	学習活動・想される生徒の反応
1 世界の食糧事情・飢餓の国の存在を認識させる。	<p>示す、世界的数値を用いて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそう ・なぜ食糧が足りてないのか。 ・日常では飢餓なんてない。
2 本時の課題を示す	<ul style="list-style-type: none"> ・日本では多くの食べ方が出る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">食糧が足りている一方で、養不の地域がある原因は何か</div>	

<p>3 養不 の人が多い地域を べさせる。</p>	<p>資料を配 し世界の各地域の 養 を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養 と 養過多の地域の が大きす る。 ・ アフリカや東 アジアに多い。 ・ 球に 中している。 ・ 発展 上国と先進国で分かれている。
<p>4 アフリカの 養不 の割合が高い原因を 想させる。</p> <p>アフリカの特徴をとらえさせる。</p> <p>世界の 生 のデータを配 し、その要因を理解させる。 の 出入の動きを資料から読み取らせる。</p> <p>読み取ったことをもとに、アメリカでの 費の実態について 明を行う。</p> <p>世界の食糧問題とは何が問題なのか考える。</p> <p>これからの世界の食糧事情のために自分たちができることを考察する。</p> <p>10 の取り組みを する。</p>	<p>先進国の食べ しの だけで世界中の 養不 の人をまかなえるということを 明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界には食糧が っている。 ・ 全体としていきわたっていない。 ・ 地 が多く、 不 で食 が育たないから。 ・ 貧しい国（発展 上国）が多く、食糧を るだけの金 を入するすべがないから。 ・ 紛争の多い 地で、 業生 までが らないから。 ・ 度が っていないから。 <p>アフリカの自然環境・紛争について資料を配 し、読み取りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 化で 性的な 不 だ。 ・ 諸外国に比べて内戦が多く こっている。 <p>食糧生 が困 であることを理解する。主な 生 はどこでおこなわれているのか理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先進国がたくさん生 している。 ・ 紛争がないから生 が多い。 ・ 自然条件が適しているから。 ・ 日本は多くを 入している。 ・ アメリカは生 に比べると 出が ない。 <p>アメリカなどは生 した を自国で多く 費していることに気づく。</p> <p>を大 に生 するアメリカは、 の 入をあまりしていないことから自国でほ まかなっていることを知り、さらにその 費の内わけが家 のえさとなっていることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ るほどの を生 しているにもかかわらず、その使い道が飢えている人たちに っていない。 ・ 日本の 入している のうち、食べ されるものが多いということは日本は無 な事をしているということではないか。 <p>学習を踏まえて、これからの世界の食糧問題に対して自分の考えと、自分たちに何ができるのかを考察しプリントに考えをまとめ発表を行う。</p> <p>体的な活動内容として、 が行っている活動（ランディア・ 金活動等）について を行い、自分たちが考えた 体的 段の実現の可能性や、何ができるかということをもより現実的な視点から考えさせる。</p>

参考資料 (統計局 および より)



参考文献

Erick Millstone・Tim Lang (者) 大 ・高田・中 () (2006)『食糧の世界地図』, 式会社.

Frances Moore Lappe・Joseph Collins・ 見宗 ほか (1988)『世界飢餓の構 ーいま世界に食糧が不 しているか ー』, 一書 .

L.T.Evans () 日向 吉 () (2006)『100 人への食糧ー人口 加と食糧生 の知 ー』, 学会出 センター.

田中 (2000)「アフリカの 化 前 」, 日本学術会議シン ジ ム 資料.

田良平「世界の食糧ー先進国と 上国のそれ れの課題ー」, <http://www.co-op.or.jp/ccij/Books/200205kada.pdf>

WFP 国連世界食糧計画 <http://www.wfp.or.jp>.

国際連合食糧 業 関 (FAO) 日本事 <http://www.fao.or.jp>.

統計局・政策統 (統計基)・統計研 <http://www.stay.go.jp/index.htm>

- ー 宮城教育大学 教授 吉田 剛 ー
- ー 宮城教育大学教 大学 ・ 生 安部 卓也 ー
- ー 宮城教育大学教 大学 ・ 生 渡邊 史花 ー